

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2010 第63号

図書館

自主創造
日本大学

あなたとともに
100万人の仲間とともに

《目次》

学部長就任にあたって	2
学部長退任にあたって	2
ご挨拶	3
平成22年度総会・懇親会開催	3
平成21年度校友会決算および	3
平成22年度校友会会計予算	3
農学校友会(植物資源科学科)	4
紫友会(生命化学科)	4
角笛会(獣医学科)	5
満喜葉会(動物資源科学科)	5
いもづる会(食品ビジネス学科)	6
あすなろ会(森林資源科学科)	6

桜水会(海洋生物資源科学科)	7
工学会(生物環境工学科)	7
F T会(食品生命学科)	8
拓友会(国際地域開発学科)	8
短期大学部湘南校友会 (短期大学部生物資源学科)	9
応用生物科学科校友会(応用生物科学科) ..	9
支部だより	10.11
校友だより	11
校友会事務局からのお願い	12
平成23年度通常総会通知	12
校友会役員・事務局名簿	12

学部発祥の碑

学部長就任にあたって

日本大学生物資源科学部 学部長 河野 英一



本夏におきましては全国で昼夜ともに酷暑が記録的に長く続いて、特に眠れぬ夜には大いに悩まされましたが、校友の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本夏の天候が熱帯起源の稲作には良い影響を及ぼすのかと思っておりましたら、然に非ずであります。特に、夜が高温になると、稲体もそれに悩まされて眠れず、休むことなく生育活動を続けてしまい、籾米の充実が遅れるということがあります。このため、多くのところで夜に田へ冷水を導水して、稲体の夜温を低めるというところが行われました。水田の圃場整備等の研究を通じて、40年間ほど稲作に係わってきた、冷温障害を避けるために田水を深く湛え、昼間に水に熱を吸収させて稲体を温めるということは数多く見てきましたが、稲体を冷やすために冷水の導水というのは初めてであります。次いで、9月中旬に東北地方に出かけ、水管理を無事に終え、稲穂がこれまでの年よりも深く垂れているのを見て一安心と思いきや、「米粒も大きく、豊作となるようではあるが、大味になることが心配される」ということでありました。一難去ってまた一難であり、「育てる」ことの難しさを改めて痛感した次第です。

さて、湘南キャンパスの若穂の籾米である学生諸君の育成・充実に、特に校友会の皆様とともに皆様のご援助を仰ぎながら、学部・学科・学生支援の強化などに大いに尽力をなされた徳山学部長が、お早めではありましたが、定年退職され

ました。徳山学部長のご指導、ご活躍等の賜に対して心から敬意を表するとともに、今後のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げるところでございます。代わって、私が10月1日付けで学部長を拝命致すこととなりました。

私は、佐々木学部長時代の平成11年10月～平成14年3月に東京校舎次長を拝命致して、湘南キャンパスへの学科等の移転を関係各位とともに完結させ、平成14年4月～佐々木学部長定年退職の平成17年8月には日本大学短期大学部(湘南校舎)次長を拝命致して参りました。学部長として、これらの経験を生かすとともに、執行部役員、教職員、大学本部等のご協力、ご支援等を得て、徳山学部長等の歴代学部長のご尽力の下で築かれてきた学部の伝統と資源に基づいた学生の質、就職率等の向上に繋がる教育・研究の新施策を講じて、本学部の社会的な評価を一層高めることに先ず邁進致したいと考えております。

本学部の校友連携の太い絆となつて、関係各位の多大なご尽力に支えられた総会等の会合などに参加することで、校友との再会ができて、中期期までは同窓・同期生と近況や仕事ぶりなどを語り合うことが次なる発展への大いなる刺激になるという喜びがもたらされているようであります。また、高年期以降になると、各人各様に艱難辛苦を乗り越えてきて、今は達成感に満ちた後半生を踏み締めつつあるということが現れた顔、将

に各人各様の「いい顔」の面々が集まり、特に同窓・同期生とともに学生時代に立ち返ることができ、初心に戻れて、これまでの人生の歩みを確かめ合え、今後の一層の健康、精進等を誓い合えるという喜びがもたらされているようであります。これらに対する校友の感謝は一層のものと思われまふ。校友会の管理運営では、労多きことが多々あると思われまふが、着実な歩みが継続されていくことが肝要であり、学部長としてもそのことを切に願ひ上げるところであります。なお、内田学部長校友会会長が拓植学科(現国際地域開発学科)のご出身であり、当学科の教員の多くが参加して設立された拓植学会(現日本国際地域開発学会)の会長を私が現在拝命致しているなどで、拓植学科・拓友会とは昔から深い親交を戴いており、その関係で内田会長と私とは古くからの付き合いとなっております。内田会長のお人柄、母校に対する深い思い入れについても、良く存じ上げているところでもあります。今後とも、内田会長を始めとする学部校友会の皆様より、学部・学科の発展と後輩の育成とを支援するための強力な手助けを戴けますならば、幸甚に存じ上げる次第であります。

学部長退任にあたって

日本大学生物資源科学部 前学部長 徳山 龍明



日本大学生物資源科学部校友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。わたくしは9月30日付けで学部長を退任させていただきます。それに伴い、10月1日付けで河野英一教授が学部長にご就任されました。校友会の皆様方には従前と変わらないご支援とご協力を河野学部長にお願い申し上げます。

わたくしは学部長に就任前に3年間学部次長の職責を担い、貴重な経験をさせて頂きました。その経験を生かし、微力ではございますが2年間学部長を務めさせて頂きました。この間、本学部校友会は創立60周年を迎え、盛大な祝賀会が開催されましたことを校友の一人として誇りに思うと同時に、大過なく過ごせたことは、皆様方のご協力の賜と心から感謝申し上げます。

わたくしは、ことあるごとに日本大学の建学の精神「自主創造」と本学の歴史を含めた、いわゆる「自校教育」を学生の皆さんに行い、帰属意識を育む事の重要性を教職員の方々と一体に

なって推進して参りました。この帰属意識こそが、校友の皆様・学生・教職員を強固に結びつける「絆」になる最大の要素であると確信しているからです。本学部の発祥の記念碑はもともと、湘南キャンパスの中心にありましたが、キャンパスの整備により次第に目立たない地点となってしまいました。そこで本年7月に図書館、学生食堂、学生サークル棟に囲まれた、多くの方々の目にふれやすい場所に移設させて頂きました。この移設にあたっては、内田俊太郎校友会会長をはじめとする校友会の皆様のご多大なご尽力とご理解を頂きましたことに重ねて御礼申し上げます。特に9月には、学部を代表して校友会への感謝状の贈呈の榮に浴させて頂きましたことは、在任期間中の思い出深い出来事となっております。移設されたことにより、学生の皆さんが本学部の歴史に思いを寄せ、それを学ぶと同時に、一層の愛校心に目覚め、学部の更なる前進が期待できるものと確信しております。

本学部には、21世紀に人類が地球規模で抱える、避けては通れない重要課題、つまり生命科学、環境科学、食科学を包括的に教育・研究する体制が整っています。本学部が掲げ、実践しているこの教育理念は、社会から求められている人材の基盤となるものであります。社会でご活躍の校友の皆様におかれましても本学部の取り組みをご理解いただき、今後とも特段のお力添えをお願い申し上げます。

末筆ではございますが、これまでに校友会の皆様から賜りましたご理解、ご協力に対して厚く御礼を申し上げますとともに、皆様の一層のご健勝とご活躍をお祈りし、退任のご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎

本年は大変暑い日々が続きましたが、校友の皆様におかれましてはご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

徳山学部長から9月末日で学部長を退任するとお聞きし、驚きと共に大変残念に思いました。徳山学部長には生物資源科学部校友会に対し「木島事務局長の推薦、校友会事務室の拡充、本部校友会正会員の加入協力、学部発祥の碑の移転」等、多くのご協力とご尽力をいただきました。又、学部長からは「退任後は一校友として校友会に協力させていただきます」との言葉もいただき感激致しました。この学部

長の言葉こそ、校友会の原点であり母校愛であると思います。

我々校友は徳山前学部長の母校愛を心に持ち、河野英一新学部長を支え学部発展・学生支援・校友の絆の強化に努力して行きたいと考えています。

私は学部校友会会長就任以来2年が経過しました。現在学部校友会は、校友会奨学金・教育資料寄付・スポーツフェスタ支援・藤桜祭支援・等を従来に増して強化しておりますが、今後は地方支部への支援強化も行いたいと考えています。

さて最後になりますが、校友100万人の願いであった、日本大学校友会館「桜門



会館」が本年6月15日、千代田区五番町に完成しました。桜門会館は私達の活動拠点となりますので、大いに利用していただきたいと思います。

今後とも何卒校友会活動を通して校友の皆様と共に母校の発展に寄与致したく、一層のご支援・ご指導・ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

平成22年度
通常総会・懇親会報告



平成22年度通常総会・懇親会が平成22年7月10日(土)午後2時より日本大学生物資源科学部湘南校舎において開催されました。通常総会開催についてはここ数年来7月の第2土曜日の開催が会員に定着したため出席者の数も増しており、本年度は80名を超える会員のご参加を頂きました。

定刻となり進行役である木島実事務局長より通常総会の進行と議題の概略説明があり、その後、農学校友会石川稔矩会長より開会の辞がなされ、内田俊太郎校友会会長の挨拶の後、会則第15条3項により執行役員会推薦の赤塚敏夫あすなろ会会長が議長に選出され議事に入りました。2時間近い

熱心な審議がなされ平成22年度の全ての議案が承認されました。

特に第6号議案の「会長選挙管理委員会からの報告の件」については木島実事務局長より経過説明があり審議されました。その経緯は、平成22年2月に実施された会長選挙に於いて会長選挙規定違反(選挙違反)が発生し、平成22年3月27日開催の幹事会において、その対応を会長選挙管理委員会の裁定に一任しました。会長選挙管理委員会からは5月6日付けで『会長選挙管理委員会から提言』が会長あてに提出され、5月14日開催の執行役員会に諮られた上で幹事・監事各位に配布されました。この提言は6月27日開催の幹事会において多数の賛成を得て承認され、『現会長の任期を1年延長し、早急に規約改訂の作業に着手する』との了承を得ており、本総会審議に於いても承認されました。

その後、会場を食堂棟3階に移して、徳山龍明名誉会長・学部長、田中英壽校友会会長・理事長並びに酒井健夫総長、各学部校友会会長をはじめ、多数の来賓各位をお迎えしてご挨拶を頂き、懇

親会が賑やかに開催されました。その中で通常総会において承認された平成21年度秋・22年度春の褒章を受章された校友4名(桜水会の角吉昭会員ならびに青木久尚会員、角笛会の岡野眞臣会員、いもづる会の神長五郎会員)の叙勲お祝いの記念品と花束が、また、校友会功勞表彰1名(あすなろ会の濱本和敏会員)には記念品が内田俊太郎会長よりそれぞれに贈呈され出席者全員でお祝いをしました。

全国各地より参加いただいた多くの校友と共に和やかな雰囲気の中で学生時代に戻り、旧交を温める懇談の輪が沢山できていました。また、農獣医学部時代、体育の先生として六会のグラウンドで学生を指導して頂いた田中英壽校友会会長・理事長の周りには途切れることのない程の多くの懇親の輪が来ていました。楽しい時間もあっという間に過ぎFT会関村具由会長の拍子木による中締めを行い、最後に木島実事務局長の閉会の辞で来年の再開を約束して和やかに散会しました。

(記:石川稔矩校友会副会長)

平成21年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算書
自:平成21年4月1日 至:平成22年3月31日

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎				
(収入の部)				
科 目	21年度予算	21年度決算	差 異	備 考
1. 前年度繰越金	4,620,760	4,620,760	0	
2. 会 費	45,330,000	45,975,000	△645,000	
1) 準会員還付金	45,060,000	45,684,000	△624,000	66,000(7)の3(準会員還付金)より10(会費)
2) 正会員還付金	270,000	291,000	△21,000	66,000(7)の3(正会員還付金)より10(会費)
3. 会費金・雑金	1,900,000	1,683,000	217,000	1) 会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
4. 雑 収 入	89,240	8,729	80,511	雑金(10)の10(雑金)より10(会費)
5. 基金取崩し繰入金	13,000,000	13,000,000	0	60周年記念事業費(基金)より10(会費)
収 入 合 計	64,940,000	65,287,489	△347,489	
(支出の部)				
科 目	21年度予算	21年度決算	差 異	備 考
1. 分会交付金	22,530,000	23,061,000	△531,000	1) 分会への交付金(分会(15)の1(分会交付金))
1) 準 会 員	22,530,000	23,061,000	△531,000	66,000(7)の3(準会員)
2. 経 常 費	12,755,000	11,154,132	1,600,868	
1) 人 件 費	3,700,000	4,144,136	△444,136	通算(56,660)円(交通費)から人件費に移行
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	支部会費、本部役員会費
3) 事務局運営費	970,000	620,189	349,811	事務局機材・リース等、消耗用品代
4) 通 信 費	2,540,000	2,381,630	158,370	会費徴収補助(225万円・送料、切手代)
5) 会 費 金	1,600,000	1,134,480	465,520	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
6) 交 際 費	1,010,000	824,740	185,260	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
7) 交 通 費	2,400,000	1,509,130	890,870	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
8) 手 数 料	65,000	69,827	△4,827	銀行送金手数料、残高証明手数料等
3. 事 業 費	27,225,000	20,781,511	6,443,489	
1) 総 会 費	8,800,000	4,742,756	2,057,244	総会・懇親会・懇親会費・事務局用品・労務等
2) 広 報 費	1,300,000	1,441,192	△141,192	会費(10)の1(広報費)より10(会費)
3) 総務委員会運営費	150,000	40,500	109,500	3回
4) 財務委員会運営費	150,000	16,400	133,600	2回
5) 学術委員会運営費	150,000	33,420	116,580	2回
6) 広報委員会運営費	150,000	24,000	126,000	1回(広報・会費合同)
7) 組織委員会運営費	150,000	27,500	122,500	2回
8) 記念事業費	605,000	408,000	197,000	創立60周年記念支部振興費
9) 名簿管理費	0	0	0	
10) 準会員対応費	11,520,000	7,776,450	3,743,550	幹事会・事務局・事務局・事務局・事務局・事務局
11) 会費金	100,000	80,000	20,000	4名
12) 会費金	300,000	300,000	0	本部スポーツ振興特別委員会へ寄付
13) 情報伝達費	700,000	761,521	△61,521	情報伝達(会費)費用、広報ジャケット製作等
14) 基金積立金繰入	5,000,000	5,000,000	0	60周年記念事業費(基金)より10(会費)
15) 60周年記念事業費	150,000	129,772	20,228	委員会運営補助費等
4. 予 備 費	2,430,000	0	2,430,000	
当 期 支 出 合 計	64,940,000	54,996,643	9,943,357	
5. 次年度繰越金	0	10,290,846	0	
支 出 合 計	64,940,000	65,287,489	△347,489	

平成22年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算
自:平成22年4月1日 至:平成23年3月31日

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎				
(収入の部)				
科 目	22年度予算	21年度決算	差 異	備 考
1. 前年度繰越金	13,987,846	4,620,760	9,367,086	
2. 会 費	47,700,000	45,975,000	1,725,000	
1) 準会員還付金	47,400,000	45,684,000	1,716,000	66,000(7)の3(準会員還付金)より10(会費)
2) 正会員還付金	300,000	291,000	9,000	66,000(7)の3(正会員還付金)より10(会費)
3. 会費金・雑金	1,000,000	1,683,000	△683,000	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
4. 雑 収 入	9,154	8,729	425	雑金(10)の10(雑金)より10(会費)
5. 基金取崩し繰入金	0	13,000,000	△13,000,000	
収 入 合 計	62,697,000	65,287,489	△2,590,489	
(支出の部)				
科 目	22年度予算	21年度決算	差 異	備 考
1. 分会交付金	23,700,000	23,061,000	639,000	1) 分会交付金
1) 準 会 員	23,700,000	23,061,000	639,000	66,000(7)の3(準会員)
2. 経 常 費	12,940,000	11,154,132	1,785,868	
1) 人 件 費	4,200,000	4,144,136	55,864	事務局用品・通算、基本給、7(人件費)等
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部役員会費
3) 事務局運営費	1,800,000	620,189	1,179,811	事務局機材・リース(80万)、金庫購入(20万)等
4) 通 信 費	2,500,000	2,381,630	118,370	会費徴収補助(220万)、会費徴収(10)等
5) 会 費 金	1,200,000	1,134,480	65,520	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
6) 交 際 費	1,000,000	824,740	175,260	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
7) 交 通 費	1,700,000	1,509,130	190,870	会費金(10)の10(会費金)より10(会費)
8) 手 数 料	70,000	69,827	173	銀行振込手数料等
3. 事 業 費	21,720,000	17,084,511	4,635,489	
1) 総 会 費	2,000,000	4,742,756	△2,742,756	総会・懇親会・懇親会費・事務局用品・労務等
2) 広 報 費	1,500,000	1,441,192	58,808	会費(10)の1(広報費)より10(会費)
3) 総務委員会運営費	150,000	40,500	109,500	3回
4) 財務委員会運営費	150,000	16,400	133,600	2回
5) 学術委員会運営費	150,000	33,420	116,580	2回
6) 広報委員会運営費	150,000	24,000	126,000	1回(広報・会費合同)
7) 組織委員会運営費	150,000	27,500	122,500	2回
8) 記念事業費	100,000	408,000	△308,000	支部記念事業費補助
9) 名簿管理費	0	0	0	
10) 準会員対応費	11,520,000	7,776,450	3,743,550	幹事会・事務局・事務局・事務局・事務局
11) 会費金	100,000	80,000	20,000	4名
12) 会費金	300,000	300,000	0	本部スポーツ振興特別委員会へ寄付
13) 情報伝達費	450,000	761,521	△311,521	情報伝達(会費)費用、広報ジャケット製作等
14) 基金積立金繰入	5,000,000	5,000,000	0	60周年記念事業費(基金)より10(会費)
15) 60周年記念事業費	0	129,772	△129,772	委員会運営補助費等
4. 予 備 費	200,000	0	200,000	
5. 次年度繰越金	4,337,000	0	4,337,000	
当 期 支 出 合 計	62,697,000	51,299,643	11,397,357	
6. 次年度繰越金	0	13,987,846	△13,987,846	
支 出 合 計	62,697,000	65,287,489	△2,590,489	

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局 藤井 秀昭
E-mail: fujiki@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度農学校友会 総会・懇親会開催

5月8日、平成22年度農学校友会総会・懇親会が開催されました。



平成21年度総会

14時より博物館棟2階第1会議室で総会が行われ、平成21年度事業報告・決算・22年度事業計画・予算等が承認されました。平成21年度事業として農学校友会会長賞の制定と授与が新しい動きとして注目されました。同賞は準会員支援事業の一環として、在学時代の功績著しく、後々の農学校友会活性化が期待される学生を卒業時に表彰する制度です。第1回目は、鬼丸真光君、小野裕士君、高橋博徳君が受賞されました。芦川藤吉氏（10期）から寄贈された「ムラサキ」が、学部キャンパスで開花したことが報告されました。

学科行事への援助

学科新入生歓迎会、藤桜祭、収穫祭、卒業謝恩会に対し補助金を提供しました。5月末に実施された学部行事スポーツフェスタに合わせ、校友会ロゴが印刷された本年度バージョンのTシャツを新入生全員に贈りました。



収穫祭の舞台

植物資源科学科の近況

〔卒業・新入生〕

昨年度は145名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4月には新入生167名（男子：98名、女子69名）を迎え、本年度は総数692の学生が在籍しています。



鵺沼海岸での地引網（新入生オリエンテーション）

4月24日、新入生オリエンテーションの一環として江ノ島鵺沼海岸で地引網が行われ、学生間、学科教員との親睦が図られました。昨年の12月5日には学科の伝統行事である収穫祭が実施されました。

〔海外研修〕

8月1日から11日の期間、国立中興大学（台湾）農業・自然資源学院の大学院生20名を受け入れた植物資源科学研修が実施されました。講義、農業試験場視察、討論会などが行われ、全員に修了証が授与されました。この間、台湾の学生と本学科学生間の交流も盛んに行われました。

〔学科教員の動き〕

作物学研究室の石井龍一教授が21年度末をもって退職されました。石井龍一先生は平成13年から8年間にわたり作物学の講義を担当されるとともに大学院博士課程学生を指導されるなど学部・学科の発展に大きな貢献をされました。造園・緑地学研究室の大澤啓志先生が准教授に、応用昆虫学研究室の畠山吉則先生が助教に昇格されました。

〔事務局より〕

農学校友会ホームページが開設されています。http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nogaku/ がご覧いただけますが、学部校友会のページからリンクを辿って入ることもできます。会員各位の近況や告知したいことなどをお知らせください。

（文責：野村和成）

紫 友 会

◇生命化学科◇

連絡先 微生物機能化学研究室
0466-84-3942 事務局 高橋 令二
E-mail: rejit@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度第1回理事会

平成22年7月24日湘南校舎において平成22年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成21年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認されました。また平成22年度の実業計画、予算案が決定されました。

平成22年度紫友会総会・懇親会

平成22年11月13日（土）日本大学生物資源科学部湘南校舎にて14時から平成22年度総会・懇親会を開催することになりましたのでご案内申し上げます。総会では平成21年度事業報告、決算報告、監査報告および平成22年度事業計画、予算案等ご審議いただく予定になります。整備されたキャンパス見学をかねて多くの校友の皆様のご出席をお待ちしております。

平成22年度第17回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第17回生9名が、同奨学生選考委員会（奥忠武委員長）により厳正に選考され下記のように決定いたしました。

2年次 池田彩佳、佐野祐果、白井宗一
3年次 菊地大志、小嶋涼、滝沢もえみ
4年次 原愛弓、兵頭竜太、和田靖之

（敬称略）

櫻井英敏教授、奥忠武教授 徳山龍明教授 退任

櫻井英敏教授（食品化学研究室）、奥忠武教授（生物分子機能化学研究室）、徳山龍明教授（微生物機能化学研究室）は、本年度前期をもちましてご退職されました。御三方の半世紀に亘る本学科の教育・研究、さらには学部・学科運営へのご尽力に対して会員一同心から感謝申し上げます。今後益々のご健勝をお祈り申し上げます。

生命化学科・農芸化学科の近況

【在学生】本年4月に新入生を迎え、生命化学科（1,2年生）328名（男子：174名、女子154名）、農芸化学科（3,4年生）320名（男子：176名、女子144名）、総計648名（男子：350名、女子：298名）の学生が在籍しております。

【学科教員動向】生物資源科学研究科応用生命科学専攻主任に有賀豊彦教授が就任されております。本年4月1日付で食品化学研究室内の赤尾真先生が助教に昇格されました。本年4月1日に細野崇助手（栄養生理化学研究室）が着任されました。先生は本学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程を修了され、日本学術研究会特別研究員、国立長寿医療センターアルツハイマー病研究部研究員として活躍されました。先生のご研究の益々のご発展が期待されます。



細野 崇 助手

平成21年度海外派遣研究員として昨年7月より1年間、カリフォルニア州サンディエゴにあるスクリプス研究所（ケミカルバイオロジー部門）に留学されておりました袴田航専任講師は無事帰国しました。

紫友会事務局より

校友会活動の一環として、紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が平成22年10月に開催され土壌学研究室が優勝しました。表彰式の後、学生、教職



員を交えて懇親会が開催されました。

また、平成22年3月に開催されました平成22年度農芸化学科卒業生謝恩会に紫友会会長、副会長の方々が招待され、卒業生の方々と広く交流を深めました。その他、新入生歓迎行事、就職活動支援事業等の活動を支援しております。学科の体制、教育、研究の状況につきましては是非、学科ホームページ（http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~cls/）をご覧ください。

（荻原 淳）

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医病理学研究室
0466-84-3624 事務局長 渋谷 久
E-mail: shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度日本大学

獣医学会・角笛会合同大会開催

平成22年7月4日(日)、日本大学生物資源科学部10号館第4講義室において平成22年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会が開催され、日曜日にもかかわらず多くの会員が集まりました。前半の第48回日本大学獣医学会としては学会総会、口頭発表による10題の一般講演、次いで「胆嚢と膵臓の疾患について考える」と題しての獣医学科4教員による教育講演が行われました。

角笛会総会でははじめに中川秀樹会長より挨拶があり、藤田実議長(昭和47年卒)の進行で審議が行われました。宮崎県口蹄疫被害に対する援助と準会員に対する角笛会支援基金の募金活動について審議され、平成22年度の事業活動として承認されました。平成22年から23年度の角笛会新役員として、会長に中川秀樹氏、副会長に岩田頼三氏、蔵内勇夫氏、佐藤常男氏が選出されました。角笛会の発展に貢献した功労者として佐藤清孝氏(秋田県)、宇井昌生氏(東京都)、太田亮氏(東京都)、苦



平成22年度角笛会総会

米地達生(群馬県)、藤井晋氏(岡山県)、本武久幸氏(熊本県)、笠松康雄(長崎県)の7名に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的としたANMEC支援基金研究助成は、林幸太郎氏(研究課題:小動物領域における消化管内視鏡超音波の標準化と臨床応用に関する研究)、関真美子氏(研究課題:カテーテルによる腹部大動脈遮断を併用した間欠的肝阻血法に関する研究)に授与されました。

総会後、食堂棟3階にて開催された懇親会には同僚校友会の来賓の方々、角笛会校友、獣医学科教員など多数が参加されました。また準会員への支援活動の一環として約50名の準会員(獣医学科4、5、6年次学生対象)を招待し、校友と準会員の親睦と交流をはかりま

した。準会員には校友子女も含まれ、親子で参加する会員も見受けられました。校友の先生方からは学生との会話が新鮮で楽しかったとの意見があり、また学生からは獣医学や獣医療に関する情



懇親会の様子

報を得て大変勉強になったとの感想が寄せられました。にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail: niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度満喜葉会

一活動経過報告一

【役員会の開催】

定例の理事会・幹事会合同の役員会は、平成22年5月22日(土)午後2時より、学部博物館2階第1会議室において開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、その後会長を議長として議事に移り、平成21年度事業報告、決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成22年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、承認されました。

【新入生歓迎会の開催】

上記理事会・幹事会合同役員会の後、午後5時より食堂棟2階において、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会(新準会員159名入会)が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

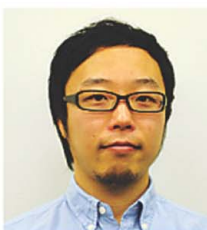
学科の近況

【卒業生および新入生】

平成22年3月25日、138名が本学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に動物資源科学科は159名の新入生を迎え、在籍者は四学年合計で641名(7月1日現在)となっています。新入生の男女比は、男子71名(44.7%)、女子88名(55.3%)となり、ここ十年来の傾向と同様に「女性上位」が続いていますが、一昨年(現学部3年次学生)の入学時の様に男女比がほぼ拮抗する学年も見られてきました。しかしながら、現在も学部内で最も女子学生在籍者が多い学科(在籍者の半数を超えているのは当学科と食品生命学科の2学科)となっています。

【新任】

本年4月1日付で、沖 嘉尚(オキ・ヨシナオ)助手が採用されました。沖助手は、平成15年3月本学科卒業の後、本学大学院に進学され、平成21年7月に博士(生物資源科学)の学位を取得、本学部ポ



沖 嘉尚助手

ストドクトラルフェローをされた後、今回の採用に至りました。現在は、動物生体機構学研究室(加野浩一郎准教授)に所属され、動物生理学実験(2年次)、動物形態学実習(3年次)等を担当されています。今後、学生指導・研究活動での益々のご活躍を期待しております。

【昇格】

昨年4月に採用されました福澤めぐみ助手は、本年4月1日付で助教に昇格されました。

【その他】

昨年度、準会員に対する援助活動の一環で満喜葉会から学科8研究室に寄



研究室個別掲示パネルでの研究成果の掲示
贈された研究室個別掲示パネル(縦160×横180cm)は、各研究室前の廊下下面に設置されています。実験実習等の連絡、研究集会の案内、研究成果の公表等、有効に活用されています。(山室 裕)

いもづる会

◇食品ビジネス学科◇

連絡先 マーケティング研究室
0466-84-3409 事務局長 木島 実
E-mail: kijima@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度総会・懇親会を開催

平成22年度の総会および懇親会が6月5日(土)に行なわれました。総会は午後3時から、懇親会は夕方4時半から、いずれも横浜の崎陽軒本店で開催されました。総会では平成21年度の活動報告、会計報告と、平成22年度の活動計画、予算案が承認されました。今年度から学科名称が「食品ビジネス学科」に変更したことに伴って、学科ホームページ、パンフレット(今年度入学者向けに昨年度から作成)、学科パネル、ポスター等の学科広報活動に対する予算が増額されるなど、学科活性化に向けての校友会からの益々の支援強化が図られました。卒業生と現役学生の交流もここ数年の目標として掲げられおり、その事業の成果の一部が学



科HPにも掲載されるなど今後も期待されることです。また、昨年度に瑞宝双光章を叙勲された神 長五郎会員(昭和37年3月卒業)の表彰も行われました。懇親会は多数の特別会員の先生方や会員に出席して頂き、学生幹事も含めて約80名の参加者により、盛大に行われました。なお、来年度の懇親会は6月4日(土)に行いますので同級会等の企画を事務局までお寄せ下さい。

学科の近況

【新入生】今年の4月、当学科では182名(男子100名、女子82名)の新入生を迎えました。新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図ることを目的とした恒例の新入生研修会は、4月24日(土)に校内で実施しました。午前中は第一講義室で「食品ビジネス学科で学ぶとは」と題して卒業生からのスピーチを聞き、実際の仕事と大学で学んだ事、体験したことがどう活かされているかなどについて学ぶことができました。続いてゼミ連の先輩達による企画として食品開発コンテストを行いました。これは今年度のスポーツフェスタで着るTシャツ



のデザインコンテストも兼ねており、ゼミ間でのコンテストにより、ゼミ内での結束が強められました。

その後食堂においてTシャツデザインの採用投票、そして昼食、ビンゴ大会、上級生による学生生活の過ごし方のアドバイスを受けるなど、1年生にとっては大学生活のこれからを知り、友人を作るきっかけとなった一日でした。

一方、晴天の下で行われた「スポーツフェスタ2010」は5月22日(土)にグラウンドで行われました。新入生研修会でのデザインコンテストで決まったお揃いのTシャツを着て、団結と熱気のこもった応援により各種目とも大健闘しました。とくに綱引きは準決勝



まで進み、一丸となった円陣による掛け声は、学科の結束力の強さを物語っていました。

【人事】本年2月末日をもって実験助手の水野如美さんが退職されました。また4月には3名の新しい先生を迎えました。浮穴(久保田)裕美助教、谷米温子助手、森静香実習助手が着任され、女性教員の比率が一気に高まりました。(磯田みゆき)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail: kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度総会・懇親会を開催

平成21年度総会・懇親会が平成21年10月10日(土)に大学構内で開催され事業報告、決算報告、計画案、予算案、役員、積立金などの事項について報告、協議の後、校友による講演会と懇親会が開催されました。

平成22年度理事会を開催予定

平成22年10月9日(土)に平成22年度理事会の開催が予定されています。事業進捗、予算執行等の報告のほか、あすなろ会創立60周年記念事業の検討、就職支援対策の検討などが予定されています。

教員の異動

～浜本先生退職～

浜本和敏先生は、長年の教育研究活動に加え、事務局長など本会の運営にご尽力いただきましたが、平成22年4月に退職されました。長年のご尽力に対し、敬意を表しお礼申し上げます。

志水一允先生が、平成22年5月に退職されました。

新任

平成22年4月には、片山義博教授が着任されました。

実習・見学あれこれ

森林資源科学・軽井沢実習



日本大学軽井沢研修所に
森林資源科学科新入生が全員集合

新入生同士と教員との親睦を深めるため、緑が鮮やかな6月、日本大学軽井沢研修所に1年次学生全員、教員の大半が集結し、2泊3日の実習を実施しました。

水上演習林でフィールド実習



フィールド実習で尾瀬に集まった
他学科の1年生と学科教員

フィールド実習は、他学科の学生向けに、演習林職員と学科教員が主体となってお世話する実習で、比較的新し

い試みです。本年は2回にわたり、水上演習林と尾瀬で、森林を学ぶ楽しさを伝えました。

学生サークル/環境・森林風致研究会が玉原発電所を見学



環境・森林風致研究会が
東京電力・玉原発電所を見学

環境・森林風致研究会(顧問・鍛代専任講師)は、水上演習林のすぐ隣の地中にある東電玉原発電所を見学しました。演習林の直ぐそばにありながら、なかなか見る機会のなかった揚水発電システムの説明を受け、皆、新鮮な感覚で学んでいるようでした。この見学会では柏崎原発や尾瀬でも学び、尾瀬では、尾瀬林業で活躍する校友の中馬氏と蓮見氏にお世話になりました。

皆様へ

校友の皆様の活動の様子をあすなろ会宛にお知らせください。今回は、お伝えできるほどの情報が整いませんでしたが、わずかながらも、校友からお便りが届いています。どのようなことでも結構です。当誌に掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。(鍛代邦夫)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物機能応用学研究室
0466-84-3684 事務局長 松宮 政弘
E-mail: matsumiya@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度

桜水会総会・懇親会を開催

平成22年6月19日(土)午後2時より湘南キャンパス10号館で平成22年度総会・代議員会・理事会が開催され、吉田良之会長の挨拶の後、平成21年度事業報告、決算報告、監査報告があり、平成22年度事業計画案、予算案などが審議され、全て承認されました。続いて午後3時より10年毎の同窓会が開催されました。さらに午後4時より食堂棟3階NUホールで懇親会が盛大に開催されました。懇親会には会員・学科教員に加え、準会員である4年次在学生数十名も参加し、和やかな雰囲気にも包まれながら出席した会員と若い在学生との間で交流を深めることができました。また、出口吉昭先生および青木



平成22年度 総会・懇親会

久尚先生(いずれも本学科第1期卒で日本大学名誉教授)が昨(平成21)年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されたことが紹介されました。

学科・準会員への支援

桜水会では、学科広報用パンフレットの作成、学科受験生対策勉強会への補助、在学生の学会参加費の補助、卒業時の記念品の贈答、1年次の必修科目である「海洋基礎実習」と「海洋生物資源科学概論」、ならびに3年次の科目である「特別講義」への支援協力を実施してきました。また、今年度は就職活動の支援を実施する予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生】海洋生物資源科学科は本年4月に161名(男子118名、女子43名)の新入生を迎えました。新入生オリエンテーションとして4月30日(金)に鶴沼海岸で地曳き網と新江ノ島水族館見学を行いました。当日は、快晴の下、教員・学生と一緒に網を曳き、またアジを3枚に下ろす調理実習も実施しました。前期に各教員が10名程度の新入生を担当して行う少人数制のセミナー形式の授業(フレッシュマン・セミナー)を行いました。

【専修コース・広域教育コースならびに食品衛生コース】海洋生物資源科学科では、2年次の3月中旬に「海洋生物

資源応用コース」あるいは「海洋生物資源広域コース」のいずれかを選択する2コース制をとっています。また、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格取得コースである「食品衛生コース」も設定しています。

【人事】本年4月1日付で、小糸智子助手(分子生物学、海洋環境学研究室)、中井静子助手(進化生態学、海洋生物資源管理学研究(下田臨海実験所))、牧口祐也助手(行動生理学、海洋生物資源生産学研究室)が着任しました。



小糸 智子 助手



中井 静子 助手



牧口 祐也 助手

桜水会事務局より

桜水会ホームページが開設されており、<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~osuikai/>からご覧いただけます。桜水会々員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。

(荒 功一)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m-aoki@brs.nihon-u.ac.jp

“会員・準会員の親睦”と“善美なる母校の発展への寄与”に取り組む

工学会では、酒川和男会長を中心とする第16期体制のもと、会の目的である“会員の親睦”と“母校の発展”を実現すべく、学科や準会員(学生)との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動に加え、工学会ホームページ(<http://www.baekougakukai.org/>)の充実など会員への情報発信を展開しています。

【総会・講演会・懇親会】平成21年11月28日に、湘南キャンパスにて実施された総会にあわせ講演会が開催されました。この講演会では、平成21年3月に本学部を退職された、世良田和寛元教授(S38年卒)と鈴木昌二氏(S49年卒)をお招きし、ご講演をいただきました。世良田先生からは『日本大学と共に半世紀』と題し、先生の学生時代から教員時代までの半生を本学・本学科の移り変わりとおあわせ、懐かしい写真を織り交ぜながらお話いただきました。鈴木氏からは『華麗なる心の旅立ち-素晴らしき出逢い-』と題し、大学生活、社会人生活のなかで青少年教育に深く関わり、7期連続当選した世田谷区議会議員としても奔走している日々のお話をいただきました。

講演終了後の親睦会では、徳山龍明学部長をはじめ、校友会各分科会長、準会員を迎えての交流がなされました。なお、本年度の総会は、平成22年11

月27日(土)の開催となります。多くの会員の皆さまの参加をお待ちしております。



世良田氏による講演風景



鈴木氏による講演風景

“母校の発展”を担う準会員への支援

工学会では、学科・在学生(準会員)への協力・支援活動として、スポーツフェスタでの学科Tシャツや卒業時の記念品の贈呈等を実施してきました。これらに加え、近年の少子化や子どもたちの工学離れによる本学科への入学者の減少に対するOB・OG会としての支援も展開しています。具体的には、学会パンフレット・ホームページのリニューアルや高校生に対して実施されるオープンキャンパス時の経済的支援

などに取り組んでいます。これらに加え今後は、準会員に対して社会人先輩としての経験をいかした就職支援も模索していきます。

学科の動向

本学科ではJABEEの地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定を得ています。このプログラムコースは、日本技術者教育認定機構(Japan Accreditation Board for Engineering Education: JABEE)によって認定されるもので、校友の皆様の大変な審査対象になっており、皆様方のご協力が不可欠となっております。今後とも引き続き、OB・OGの皆さまで技術士・技術士補を取得の方は、学科ホームページからの情報登録のご協力をお願い致します。

【人事】平成22年4月、富田節雄専任講師が退職されました。先生の講義・実験実習では、学生たちが社会人となった後を見据えた、厳しい中にも愛情のあるご指導をいただき、また本学科のためにご尽力いただきました。長い間ご苦勞さまでした。これからもご健勝で活躍されますことを願う次第であります。

平成22年4月に笹田勝寛専任講師が准教授に昇格されました。おめでとうございます。今後とも、研究・学生指導と、更なるご活躍を期待いたします。【事務局より】会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが事務局までE-mail又はお葉書にてご一報ください。正しく登録されていないと、郵便物が届かないことがあります。なお、本会ホームページからも、更新手続きが可能です。

(藤沢直樹・H6卒)

FT 会

◇食品生命学科◇

連絡先 食品資源研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

FT 会活動報告

○FT 会理事会開催

FT 会理事会が平成 22 年 4 月 10 日午後 3 時より本学湘南校舎食品生命学科会議室において行われました。理事会では平成 21 年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成 22 年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○平成 22 年度 FT 会総会の開催

平成 22 年度 FT 会総会が平成 22 年 6 月 12 日（土）に本学湘南校舎食品生命学科会議室において開催されました。総会は関村 具由会長（第 1 期生）の挨拶で開会し、平成 21 年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成 22 年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○準会員（在学生）への活動

平成 22 年 3 月 25 日の卒業式には第 45 期学生（4 年生）の中から学業および人物優秀な学生へ贈られる FT 会長賞を授与いたしました。平成 21 年度は角



スポーツフェスタ

田知美さん、相澤竜太郎さんと井上陽介さんが選出され、金一封が贈られました。また、5 月には、新入生の懇親会を補助しました。同じく 5 月に実施された学部スポーツフェスタでは、参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。スポーツフェスタの成績は、僅差の準優勝でした。

学科の近況

○人 事

平成 21 年 8 月 31 日付で鈴木 功先生（食品化学工学研究室、旧 2 研）が退職されました。先生は長年に亘って、多くの学生を教育および研究指導され、本学科の発展にご尽力いただきました。また、本年度、名誉教授の称号を授与されました。今後とも、先生のご健勝をお祈り申し上げます。平成 22 年 3 月 31 日付で黒田友美 副手（旧姓 安藤）が退職されました。黒田さんは学科および FT 会の事務、講義において先生

および学生を支えてくださいました。4 月からは本学部の富士自然教育センターにて勤務されるということで、今後とも本学科および FT 会にご尽力いただくことを期待しております。また、黒田さんの後任として、稲葉由貴 実習助手が採用されました。稲葉さんは、平成 22 年度、本学科を卒業されました。今後のご活躍を期待しております。



謝恩会

事務局より

会員の方々と、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しく FT 会のホームページ（<http://ftkai.net/>）からも各種変更届を受け付けております。また、4 年生の就職活動が例年にも増して厳しい状況となっております。会員の方で就職に関するご意見、情報などがございましたら、ぜひ事務局までご一報下さい。

（阿部 申）

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営流通研究室
0466-84-3457 事務局長 早川 治
E-mail: osamu@brs.nihon-u.ac.jp

2010 年度

国際地域開発学科海外研修

本学科主催の海外研修は、今年度は韓国・慶熙大学校およびフィリピン・ピコール大学との提携に基づいて 2 チームが派遣され、8 月中旬から 9 月初めにかけて無事に終了した。



慶熙大学校学生との交流会

韓国研修ではおもに草の根からの交流と異文化体験、フィリピン研修では現地に密着した本来の国際協力とはどうあるべきかについての検証に重きを置いておこなわれた。参加学生の学年構成にもそれぞれ違いがあり、韓国研修では女子学生が 9 割を占めるなど特徴的であった。いずれも、学科の目的に沿ったプログラムを通しての貴重な



ピコール大学学生との交流会

体験が、今後の学生生活をはじめあらゆる面に生かされることが期待される。

退職・着任・奉職

【退職】

北野 収 先生

地域開発論、地域研究（北アメリカ）等を担当されていた北野先生は、平成 21 年 3 月をもって退職されました。

青山 和佳 先生

開発社会学、宗教社会学等を担当されていた青山先生は、平成 21 年 9 月をもって退職されました。

丸田 千花 先生

スペイン語、英語教育を担当されていた丸田先生は、平成 22 年 3 月をもって退職されました。

益富 桜子 副手

学科事務担当の益富副手は平成 21 年 3 月をもって退職されました。

市村嘉加奈子副手

学科事務担当の市村副手は平成 22 年 3 月をもって退職されました。

【着任】

菊地香先生

本学科平成 3 年卒の O B の菊地先生が、

平成 21 年 4 月より着任されました。担当は地域開発論、社会調査分析実習等です。研究・教育にご活躍を期待します。

溝辺哲男先生

本学科昭和 51 年卒の O B の溝辺先生が、平成 22 年 4 月より着任されました。担当は NGO・NPO ボランティア論、スペイン語コミュニケーション、地域研究（中南米）等です。研究・教育にご活躍を期待します。

麻生久美子先生

麻生先生が、平成 22 年 4 月より着任されました。担当は時事英語、専門外書購読等で、とくに学科の英語教育の充実にむかってのご活躍を期待します。

山下哲平先生

本学科平成 12 年卒の O B の山下先生が、平成 22 年 4 月より着任されました。担当は国際関係論、専門外書購読等です。研究・教育にご活躍を期待します。

【奉職】

山本緑実習助手

本学科平成 21 年卒の山本さんが、平成 21 年 4 月より奉職されました。学科の事務を担当され、また学生の相談など、幅広く活躍されることが期待されます。

奥儀佳南子実習助手

本学部平成 22 年卒の奥儀さんが、平成 22 年 4 月より奉職されました。学科の事務を担当され、また学生の相談など、幅広く活躍されることが期待されます。

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部生物資源学科 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局長 蒲原 義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成22年度総会・懇親会の開催

平成22年6月26日(土) 日本大学
短期大学部生物資源学科5号館531講義室において、
平成22年度の短期大学部湘南校友会が開催されました。

教員、在校生、卒業生多数の方々に参加していただき、終始、和やかなムードの中執り行われていました。

学科の近況

【新入生】

今年度、短期大学部生物資源学科新入生は、定員を大幅に上回る175名(男子95名、女子80名)が入学してきました。生物資源科学部12学科短期大学部1学科全体で、3番目に入学定員が多く、4月からの新入生ガイダンス等大変でした。

毎年恒例の新入生軽井沢研修が4月9日、10日に行われ、研究室ガイダンスやウォークラリー、履修登録指導など実施しました。

また、5月22日(土)には、NUグラウンドにてスポーツフェスタが開催されました。



絶好の天候に恵まれ、本気リレー準優勝、大縄跳び準優勝、企画リレー3位、ムカデ競争4位で、短期大学部創設以来初となる総合優勝の栄冠を手にすることができました。

これも一重に、短期大学部の教員、学生が一丸となった結果だと確信しています。来年も総合優勝二連覇目指して頑張ります。



【卒業生】

平成22年3月25日に107名の学生が卒業し、それぞれの道に巣立っていました。

生物資源科学部への編入63名、他学部・他大学の編入6名(日大国際関係学部、静岡大学、島根大学、東京都市大学、東北福祉大学、福島農業短期大学)専門学校6名(東京テクニカルカレッジ、美容専門学校、ネイルズユニークカレッジ、カコ動物看護学院、駿台法律経済専門学校、晃陽栄養看護専門学校)就職4名(株式会社ヤオマサ、あわしまマリンパーク、杉養蜂園、JAあがつま)でした。今後の活躍に期待しています。

【事務局より】

会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかご一報下さい。

(松橋 明宏)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

応用生物科学科の近況

【在籍】現在応用生物科学科の在籍学生数は611名、学年別では、4年生134名(男88名、女46名)、3年生167名(男106名、女61名)、2年生141名(男85名、女56名)、1年生169(男107名、女62名)名となっています。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は、博士前期課程41名(男36名、女5名)、博士後期課程3名(男3名)となっています。

【退職】本年3月31日付で、中嶋睦安教授(分子微生物学研究室)が退職されました。46年間の日本大学在職中、800名を超える卒業研究生と多くの博士前期課程修了者と博士後期課程修了者の指導にあたられました。長い間、本当に有難うございました。心より御礼申し上げます。

【昇格】本年4月1日付で応用生物科学科に砂入道夫准教授(分子微生物学研究室)が教授に昇格されました。教育と研究において、今後の益々のご活躍を期待しております。

【海外留学】明石智義専任講師(生体分子科学研究室)は、1年の留学期間を終えて、9月8日に帰国いたしました。

アリゾナ大学(アメリカ合衆国)のVanEtten教授の研究室で植物病理と天然物化学に関する研究を行ってきました。この貴重な体験は、きっと、今後の教育と研究に生かされると確信しております。

協賛活動

平成21年4月28日(水)に、本館地下のカフェテリア(スエヒロ)において、新入生歓迎会を盛大に行いました。学科の教員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し、相互の親睦を深めていました(写真1、写真2)。



写真1:砂入先生と新入生(新入生歓迎会にて)

昨年同様、T-シャツを新入生に送りました。今年は明るいオレンジ色に白い絵柄のデザインでありました。スポーツフェスタでは、学生、教員ともにこのT-シャツを着て、競技や応援を行っていました(写真3)。一体感があり、非常に目立っていました。

恒例となった学部4年生、大学院生、教員による研究室対抗球技大会は、学



写真2:舌名先生と新入生(新入生歓迎会にて)

部4年生によって立案されましたが、開催までは至りませんでした。残念に思います。親睦を深める良い機会ですので、本年度は是非開催していただきたいと思っております。



写真3:樹廣先生と新入生(スポーツフェスタにて)

事務局より

事務局では会員の皆様方からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しております。ご一報くださいますよう、お願い致します。

最後に、住所変更、改姓、お問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。(司馬 肇)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3131 仙台市東区七北田字町31番地
小野 隆事務所 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail:takashi@enax.net



総会出席者



内田 会長
開会直前、急用にて
帰京



中沢 (法S40) 校友会
宮城県支部副支部長
所用にて記念撮影後
にご臨席

杜の都が「第20回定禅寺ジャズフェス」で賑わう9月11日(土)、来賓・会員21名のご出席をいただいて「平成22年度(第7回)総会・懇親会」を開催しました。

内田会長が開会直前急用で帰京されるという残念なこともございましたが、初めてご参加いただいた3名の方をお迎えし、活気ある総会・懇親会でした。

母校意識が非常な高まりを見せ「日大ガンバレ」と絶叫したのは昨年10月26日(日)第27回全日本大学女子(杜の都)駅伝での沿道応援



3区4位、4区9位の展開に5区走者を待ち受ける生協ケ丘店前の生物資源科学部大応援団

です。宮城県オール日大校友会一丸となって応援しました。「N」のマーク、ピンクの襷で力走する後輩の必死の姿には感動しました。

総会後の講話は、内田会長の代理で、急きょ村山前事務局事務長より「日本大学校友会の近況」と「生物資源科学部の近況」について伺いました。

懇親会では、高坂先生(元食品経済学科教授、日本桜蘭会会長)から「ワインの楽しみ方について」と題した「試飲ありの特別講話」があり、先生同様、皆、ワインの魅力と神秘性にとりつかれたようでした。

各自、一人一言近況報告や席を移動しての懇親など時間の経過も忘れ和気藹藹とした中でありましたが、次回の会合を楽しみにおひらきとなりました。

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市島居丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:t_lkeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp

日本大学生物資源科学部 山形県支部の近況



平成22年 総会集合写真

平成22年度山形県支部総会は平成22年2月13日(土)かみのやま温泉「にほんの宿 古窯」にて会員30名出席、日本大学学部校友会副会長関村具由氏、生命化学科教授 櫻井英敏氏、宮城県支部監事小高雄幸氏、地元からは日本大学山形高等学校・中学校校長 名古屋逸氏、日本大学校工科系校友会山形県支部副支部長瀬健一氏、日本大学経済学部校友会山形県支部副支部長 菊地敬二氏の来賓をお迎えし開催しました。

総会は小松文嗣支部長挨拶の後、来賓各位がご紹介され、その後議長に鈴木伸広氏(生物環境工学科56年卒)を選出し、会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案通り可決決定され終了しました。

総会終了後、講演会に移り、講師に生命化学科教授 櫻井英敏先生を迎え、「生活習慣を予防する機能食材について」と題し、ハイオレイック種ピーナッツ、日本ワサビ、アセロラ、ジャンボリーキ等の含有成分と生活習慣病に対する予防効果について講演していただき、これらを混入した大学発の実践的機能性食品を紹介していただきました。

引き続き来賓の校友会副会長の関村具由氏より「校友会の近況について」、名古屋校長からは「日大山形高校の近況」のお話をいただきました。

懇親会では、小松文嗣支部長の挨拶、来賓からのご挨拶をいただき乾杯となりました。関村具由氏より相撲甚句を披露していただき、関村先生より全員が相撲の番付表を頂戴しました。その後恒例になった学科毎の自己紹介、近況報告を佐藤正義氏(植物資源科昭和50年卒)の進行で和やかに行なわれました。時間と共に盛り上がり最後に日本大学校歌を斉唱し、万歳三唱して盛会の中にお開きとなり、翌日朝食後次回の再開を誓い散会となりました。(事務局 池田卓郎)

山梨県支部の近況

連絡先 〒405-0044 山梨県山梨市市川1403
支部長 古屋 勝美
TEL&FAX.0553-22-5183
E-mail:furukathu1211@fruits.jp

総会と役員会開催

残暑厳しい折、皆様には元気で過ごしのこととご拝察申しあげます。

年度毎の活動報告については、学部会報とともに役員及び会費納入者に限定し郵送いたしました。

定期総会は、規約では毎事業年度に開催することになっていますが、今まで慣例により2年に1回の開催で進めてまいりましたが、今年度が開催の年にあたりますので盛大に開催する計画です。

役員改選等もありますので、事務局会議及び役員会等で協議するなかで取り進めてまいります。宜しくお願いします。

お願い

この会は、学部を卒業し山梨県内に居住する校友の連帯と親睦を深めるため、多くの先輩が努力して築き上げたものです。この流れを止めないよう、執行部一同継続した活動に努力しているところです。

つきましては、会員各位におかれましても、友達や職場内での校友への声かけなど、一人でも多くの方に参加頂きますようご協力をお願いします。

(支部長 古屋勝美)

高知県支部の近況

連絡先 〒780-0084 高知県高知市南御座12-3
高知県支部事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail:maekawa@mb.inforioma.or.jp
※連絡先:高知市南御座9-19から高知市南御座12-3に変更となっております。



平成22年 総会・懇親会

去る8月21日(土)高知市の料亭「葉山」において、第22回高知県支部総会を開催いたしました。ご来賓の関村校友会副会長、茂澤顧問、特別会員の高坂先生を県内各地から集まった校友が囲み23名の出席者となりました。

物故会員に対し黙祷を捧げたのち森田支部長より開会挨拶、引き続きご来賓からそれぞれご祝辞を頂戴致しました。

関村様には支部に対する助成金の検討や、個人情報保護法をクリアしながらの支部への名簿情報の開示手続き等、支部にとって大変ありがたなお話をいただきました。又、学部長の交代、受験生の動向、指定校制度、

(次頁へ続く)

(高知県支部 前ページより続き)

学部記念碑の移設、地方に帰る学生の就職を受け入れられるような社長の創設など、多岐にわたる学部および校友会のお話をいただきました。

茂澤顧問からは、「高知県支部の益々の発展を祈念します」とエールを頂戴し、高坂先生からは、台湾支部との交流会「日本桜蘭会」の活動報告や11月に予定される世界花博覧会にあわせた交流会についてのお話をいただきました。

続いて議長に森田会長を選出して議事にはいりました。平成21年度事業 および収支決算報告が全会一致で可決されたのち、平成22年度活動方針および予算と滞りなく承認されました。

議事終了後は高知名物の皿鉢料理を囲み、意見を交換しながらの充実した懇親会となりました。全員で校歌を斉唱し、日本大学にエールを送ったのち、突然お願いしたにもかかわらず、関村校友会副会長に快く相撲甚句をご披露いただきました。内田会長にお電話でお話は伺っていたのですが、拝聴するのは初めてで想像以上にすばらしく、支部会員一同相撲のお話と甚句に聞き入っていました。最後に関村副会長の三本締めで再会を祈念しての閉会となりました。

(高知県支部事務局 前川卓也)

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
事務局長 小牧 弘
TEL&FAX.0466-84-3659
E-mail:komaki@brs.nihon-u.ac.jp komaki.hiroshi@nihon-u.ac.jp



平成21年 支部旗・懇親会

本会は学部校友会神奈川県支部として新たな出発に先駆け、平成21年12月12日(土)総会、懇親会・収穫祭が行われた。総会では会の若返りと活性化を考えて、支部長に世良田(農工38卒)、副支部長に矢口氏(獣医38年卒)、小牧氏(事務局長兼務 畜産40年卒)、横川氏(食経42卒)、佐々木氏(農学51年卒)、事務局長補佐・会計理事に増田氏(畜産52年卒)、会計監査に稗貫氏(食工41年卒)、相沢氏(水産42年卒)が新役員として選出され、無事に終了した。懇親会・収穫祭は12月にもかわらず晴天で暖かな絶好日々であり、生物環境工学科の都甲洙先生に蕎麦打ちをお願いし、煮物は事務局長や会計監査の奥様方のご協力で仕込んで頂き、収穫祭も成功に終わった。

昨年からは会員に少しでも魅力を持つて頂くことを目的に前会長時代から行われていた活動は事務局と鈴木明夫氏の(昭30卒)協力によって、農場



ジャガイモ収穫

の敷地を借用し会員が農産物(蕎麦、大根、エンドウ豆、ジャガイモ、サツマイモ、



農場にて

トモモロコシ、ナスなど)を生産し、魅力のある会として活動を行っています。

会の運営は理事の皆様が会に出席頂いた際の会費の余剰金で行って参りましたが、出席者が少ないこと、本部会は高齢化し新会員の増員が無く、会の持ち金が底をついてしまい、会の運営は存続の危機に直面しています。今後、会の活性化には、皆様方のご協力をなしでは会の存続があり得ない状況です。

皆様からご援助やアドバイスなどのご意見を頂ければ幸いです。また、神奈川県に住居あるいは勤務地である方は生物資源科学部(旧農獣医学部)卒業の誰でも参加できますので、事務局へご連絡頂ければ幸いです。

校友だより

先崎 史人

昭和60年 畜産学科卒業
神奈川県に入庁し、行政や研究を経て、現在は普及指導員として県内の生産者への技術支援、関係機関と連携した畜産振興に向けた取り組みを進めています。在学時には肉牛の飼育試験を行っていた事もあり、念願叶って、肉牛を専門分野として生

産現場を回っています。多くの日大諸先輩のいる職場ですが、特に肉牛部門では学科の先輩にも恵まれ、楽しく仕事をさせていただいています。途中、4年間ほど県立の乳牛育成牧場に勤務した際も、ほ場作業では農場機械部での機械実習経験を活かす事が出来ました。このように、多くの先輩方をはじめとする人とのつな

がり、多くの経験を与えていただいた大学に感謝しています。今もなお、国内の畜産業界は厳しい経営環境に置かれていますが、少しでも生産者の皆様のお役に立てば・・・との思いで今後も現場で活動していく所存です。

最後となりましたが、校友会の皆様のみますご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

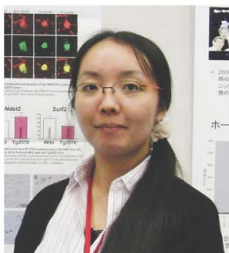
お茶の水女子大学

食品化学研究室

細野(深尾)友美 助教

平成14年農芸化学科卒業

食品の三次機能の研究により学位を取得した後、国立長寿医療研究センターにて基礎医学研究に携わりました。平成22年8月からは、お茶の水女子大学の食育事業に関連して同大学食品化学研究室(久保田教授、森光准教授)で仕事をしております。



子供の頃から科学に漠然と興味を持っていましたが、研究職に就くことは想像していませんでした。生物学と化学に興味を持って進学した農芸化学科(現:生命化学科)で実験研究の面白さを学び、配属された栄養生理化学研究室での研究活動を通じて「人に物事を伝える大切さ、面白さ」を知りました。「科学・技術は人の世に役に立つこと」を自ら発信できる研究職は理想の仕事です。

幸い、上司や環境に恵まれて研究職に就きましたが、未だ女性が少ない職種です。先輩女性研究者に相談に乗っていただくことも多々ありました。現在は女子大に勤務している



食品化学研究室集合写真(上段左本人です)

ため、私自身が女性研究者の一人として学生に接する機会があります。これまでの恩返しのつもりで誠意を持って対応したいと考えています。

研究者としては駆け出しですが、精一杯職務を行ないます。食にまつわることで、産学に関わるなど、何かお手伝いできることがありましたら、ぜひご一報ください。



◆学部発祥の碑移設に伴う庭園寄贈◆

昭和59年7月22日(土)開催された昭和59年度農獣医学部校友会総会懇親会に於いて、農学部創立40年校友会発足35年の節目を記念し、学部の将来の発展に大きな指針となり心の支えをもたらすことを願い、学部発祥記念碑建立祝賀会が併催され、校友諸兄250名が出席するなか久木田賢志学部長から、「校友会から学部に対して寄贈された記念碑(学部並びに短大農学科発祥の碑)を校友会・学部発展の絆と糧に、今後一層の繁栄に邁進したい」と、力強いご祝辞とお礼を述べられた。(昭和59年10月5日発行の日本大学生物資源科学部校友会会報第37号より)昭和27年(1952年)4月、前年の学校法人日本大学と学校法人東京獣医畜産大学との合併により学部名称が日本大学農獣医学部と変更され、来年には学部発祥60周年を迎えることになります。

徳山龍明学部長より「自校教育」の強化についてかねがねお話を頂いており、

■校友会事務局からのお知らせ■

【学部祭】

10月23日(土)から25日(月)の3日間、本年も藤沢・湘南校舎にて藤祭が開かれます。今年のテーマは「明日へ繋がるエココミュニケーション」と題してエコを考えながら開催されます。23、24日は例年通りオープンキャンパスが開かれますので進学ご希望の関係者がおられましたらお誘い合わせてご来場下さい。昨年は初めて教室を借用して校友会の歴史を展示しましたが、本年も校友会の活動を展示したいと考えておりますので是非ご来場下さい。メインコンサート、農場見学(23日)、野菜の叩き売り、フリーマーケット、花火大会、講演会(24日)等が予定されています。

【総会・懇親会】

本年は記事にも記載しました通り、学内開催にて開催されました。来年も7月9日の第2土曜日に恒例通り、総会懇親会を開催する予定です。学内見学・研究室訪問をはじめ同期会の開催等も検討

校友会会報のご挨拶に寄稿(第62号平成21年発行)して頂いておりますが、校友会として学部発祥60周年を記念して何か学部発展の為になることをと、先人の願いを学生諸君や学部を訪れる方々に学部発祥記念碑を見て頂きたいと移設を検討して参りました。この度、学部の手により記念碑が図書館と食堂棟の間に移設されました。校友会としては記念碑をより多くの皆様に見て頂きたいと、周辺緑化事業として庭園化を図ると共に説明看板を立てることと致しました。記念碑の中の段の文は以下の通りで、この文にある稀少品種「むらさき」の種を保管しておられた芦川藤吉様からお譲り頂き、昨年より農学校校友会のご協力を頂き栽培して参りました。本年春には可憐な白い花を咲かせました。今後更に増殖した暁には、庭園の主な花として植栽する予定です。是非機会がございましたら図書館裏、食堂棟横の記念碑の場所にお運び頂ければ幸いです。

されませんか。校友会がお手伝い致しますので事務局までお申し出下さい。

【正会員募集のお知らせ】

本年6月、日本大学校友会の新たな活動拠点として校友会館「桜門会館」がJR市ヶ谷駅側に竣工した。ラウンジもありますので校友との歓談、会合にご利用下さい。日本大学・学部の益々の発展を願って正会員を募集しています。年会費は1万円ですが、学部所属の正会員になりますと学部校友会に還付金が出るとともに、輝く後輩達に様々な応援活動が出来ることになっています。詳しくは申込書に記載されていますので、学部校友会事務局に資料請求をお願いします。正会員になり2回送付されます。

【ホームページ】

学部校友会ではホームページを立ち上げております。会報は年1回発行しておりますが、新しいニュースは随時ホームページにてご紹介しております。桜、薔

碑文

我らが青春の譜は この相模野のむらさきが丘に奏でなれ 若き理想の夢は この地に燃えたりたり

歴史と伝統を受け継ぎ永久に語りて栄光あらしめんことを期し ここに学び舎の略史を刻して碑を建立する

昭和五十九年七月二十二日

日本大学農獣医学部校友会 略史(下段の文)

我が学部は 昭和十二年三月 法文学部に専門部拓殖科の創設されしに始まる 次いで昭和十八年五月 その実習地たりしこ亀井野の郷に 農学部の設置をみたり さらに 昭和二十五年三月 短期大学部農学科を設置 昭和二十六年十一月に至り 学校法人日本大学と同じく東京獣医畜産大学と合併 翌二十七年三月 学部名称を日本大学農獣医学部と変更せり

(以下年度毎の学科発足設置の記載)

本誌表紙写真を参照願います。

微、むらさき、カルガモの到来等のニュースも掲載します、是非ご覧下さい。住所変更は「校友会について」のページから定型のメールが発信出来ます。同期会等会合の連絡にも使えます、ご利用下さい。

【宮崎県口蹄疫関連の寄付のお知らせ】

宮崎県で発祥した口蹄疫は大変な被害を宮崎県に与えました。直接被害を受けた畜産農家は勿論、被害の余波を受けた皆様に同情を禁じえません。御見舞い申し上げます。学部からも獣医師が応援に駆けつけられたとお聞きしました。又、学部を挙げて募金活動もありました。7月に開催された校友会総会に於いても被害を受けた皆様に少しでもお見舞いしたいとの提案がなされ、全会一致で承認されました。些少ですが校友会から(社)宮崎県共同募金会に寄付をさせて頂きましたことをご報告致します。

連絡先:日本大学生物資源科学部校友会事務局

TEL&FAX.0466-84-3799

Eメール:koyukai@brs.nihon-u.ne.jp

日本大学生物資源科学部校友会

役員・事務局名簿

平成22年10月1日現在		幹事	
名誉会長	河野 英一	酒川 和男	環昭和47年卒
会長	内田 俊太郎	鈴木 重雄	環昭和52年卒
副会長	嶋 弘倫	青木 正雄	環昭和46年卒
"	木川 稔矩	栢 英彦	食昭和41年卒
"	赤塚 敏夫	竹 永章也	食昭和56年卒
"	関 村 夫	谷 地 三知	食昭和44年卒
"	山本 洋樹	早川 治	食昭和47年卒
幹事	藤井 秀昭	大谷 憲	応生平成4年卒
"	赤井 功武	飯塚 崇	応生平成4年卒
"	駒井 祥史	司馬 肇	農化昭和56年卒
"	坂井 久史	鈴木 春	短大昭和34年卒
"	中藤 常男	福 祥	短大昭和62年卒
"	津曲 幸彦	福 義明	文理昭和53年卒
"	小丹 美次郎	顧問	茂 澤 杲
"	島田 圭一郎	監事	遠 藤 克
"	菅 井 敦	"	長 尾 壯
"	磯田 みゆき	"	勝 野 武彦
"	宮島 吉夫	【事務局】	木 島 実
"	阿部 和時	事務局員	山 本 捷
"	吉田 良太郎	"	宮 島 吉夫
"	橋 迫 覚	事務局員	熊 澤 恵美子

会報編集委員

農学校友会	野村 和成	桜水 会	荒 功一
農友会	荻原 淳	工 学 会	藤 直樹
角笛会	手島 健次	F T 会	阿 部 申
満喜葉会	山室 裕	拓友会	早 川 治
いもづる会	磯田 みゆき	応用生物学科校友会	司 馬 肇
あすなろ会	鍛 代 邦夫	湘南校友会	松 橋 明宏

日本大学生物資源科学部校友会

ホームページアドレス

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~koyukai/>

またはインターネット検索機能で「日本大学生物資源科学部校友会」で検索して下さい。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL・FAX 0466-84-3799
E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp
印刷所 ベーシックプリント
TEL.048-833-3086 FAX.048-833-3128
E-mail:bphide833@yahoo.co.jp